

－ ビジネスモデル

DXを実現するビジネスモデル

当社グループは、働き方を変えるDXサービスを提供しており、各サービスは共通するビジネスモデルによって支えられています。このビジネスモデルは、人や企業のビジネスにおける出会いに注目し、そこで生じる業務効率化や生産性の向上といった各種課題に対して、アナログ情報をデジタル化し、データの活用を促進するという手法で解決に導く特徴を有してい

共通するビジネスモデル

当社グループでは、人や企業との出会いをビジネスチャンスにつなげる、働き方を変えるDXサービスを提供しています。具体的には、営業活動や請求、契約業務といった分野においてサービスを展開しており、これらは共通するビジネスモデルによって支えられています。ビジネスモデルの特徴として、当社が掲げるミッション「出会いからイノベーションを生み出す」に基づき、各サービスはいずれもビジネスにおける人や企業との「出会い」に関連したものとなっている点が挙げられます。その上で、「アナログからデジタル」による課題解決、すなわち、多様な企業情報や顧客との接点情報、請求や契約業務において発生する書類や業務フローといったアナログ情報をデジタル化し、ビジネスデータとしての活用を推進することで、企業やビジネスパーソンの業務効率化や生産性向上に寄与するものとなっています。日本では、デジタル庁の新設や、各企業・団体が喫緊の課題対応としてDX化を進めていることが表すように、企業の業務フローには紙媒体等の非効率なアナログな状態が未だ多く残っています。そのため、デジタル化による効率化の余地が大きく残されており、当社のビジネスモデルは、これらのさまざまな分野に適用可能な高い汎用性を有しているものと捉えています。

この「アナログからデジタル」を実現可能とするのは、クラ

ます。日本国内では、多くのビジネスシーンにおいて、未だアナログで非効率な業務が山積していることから、このビジネスモデルはさまざまな分野に適用できる高い汎用性があるものと捉えています。また、このビジネスモデルを実現する「アナログ情報をデジタル化する技術」を創業以来、磨き続けたことで、当社グループは高い競争優位性を有しています。

ウドソフトウェアにテクノロジーと人力によってアナログ情報をデジタル化する技術を組み合わせた独自の手法です。いずれもクラウド型のサービスで高いセキュリティの下で運営がなされており、これまで培ってきたサービスに対する安心性や信用度は当社グループの重要な事業基盤となっています。また、アナログ情報を迅速かつ正確にデータ化する技術は、各サービス共通の競争優位性です。当社グループは創業以来、アナログ情報のデジタル化に引き合い、データ化精度99.9%とスピードの両立を実現するに至るまで技術を磨き上げてきました。この結果、創業事業である「Sansan」は、法人向けクラウド名刺管理サービス市場においてシェアNo.1^{*1}のサービスに成長したほか、2020年に提供を開始した「Bill One」もクラウド請求書受領サービス市場において売上高シェアNo.1^{*2}を獲得しています。このアナログ情報をデジタル化する技術は、他のビジネス分野へ展開する上で高い汎用性を有しており、日本国内においてはアナログに起因する多くの社会課題が山積していることから、当社グループのビジネスモデルには高い持続可能性があるものと捉えています。

*1 「名刺管理サービスと営業サービス(SFA/CRM/オンライン名刺交換)の最新動向」(2020年12月シード・プランニング調査)

*2 デロイト トーマツ ミック経済研究所「驚異的な成長が見込まれるクラウド請求書受領サービス市場の現状と将来」(ミックITレポート2022年7月号)

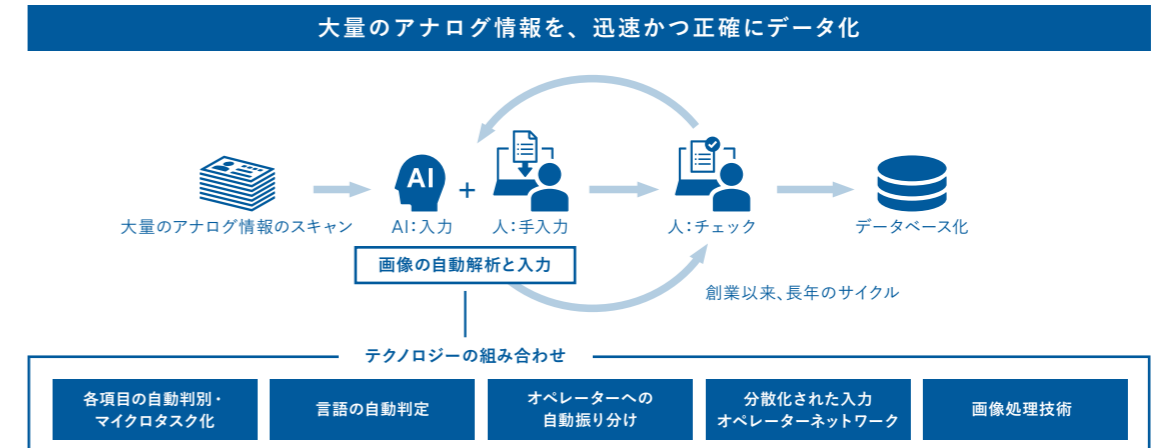
アナログ情報をデジタル化する技術

99.9%の精度を実現するデータ化オペレーション

当社サービスでは、機械学習等によって進化するAIテクノロジーと人による手入力の組み合わせによって、名刺や請求書といった各種アナログ情報のデータ化を行っています。当社独自の技術に限らず、現在全世界に普及しているようなOCR(光学文字認識技術)を用いたとしても、それだけで99.9%のデータ化精度を実現することは困難であるため、

必ず人の手入力で精度を補完する必要があります。当社グループでは、研究開発組織でのAI技術研究等によって機械での自動データ化比率を高めると同時に、数十万人以上のオペレーターによる手入力を効率的に組み合わせることで、大量のアナログ情報を、低コストかつスピーディーに正しくデータ化するオペレーションを構築しています。

アナログ情報のデータ化フロー



名刺の場合

- | ① スキャン・撮影 | ② 画像処理 | ③ 項目の分類 | ④ 切片化 | ⑤ データ入力 |
|---|--|--|---|--|
| ユーザーが専用のスキャナやスマートフォンのアプリケーションで名刺をスキャン・撮影すると、取り込まれた名刺画像が当社のデータセンターに送付されます。 | 名刺画像は、画像処理技術により背景処理がなされ、文字を際立たせるホワイトニング等の画像補正処理によって文字が読み取りやすい状態へと加工されます。 | 名刺上の文字のかたまりを機械によって自動判別し、分割した後、そのかたまりを会社名・姓名・肩書き・住所・メールアドレス・会社のロゴといった各項目へ分類します。 | 分類した項目には、姓名や電話番号、メールアドレス等が含まれるため、セキュリティに配慮し、個人情報を含む画像は、情報として価値が無くなるまで、切片化します。 | 切片化したそれぞれの項目を機械処理によって自動でデータ入力を行います。機械による自動入力ではデータ化を確定できなかった場合には、人が手動にて入力を行います。 |

高精度なデータ化を実現する仕組み・テクノロジー

データ化システム「GEES」

大量のアナログ情報をセキュアな状態で、正確かつ効率的にデータ化する当社独自のオペレーションシステムです。

AI・画像認識技術

独自に開発した画像認識技術やAIの活用によって、アナログ情報を高速かつ高精度でデータ化しています。

「NineOCR」

メールアドレスを99.7%以上の精度でデータ化する独自のOCRで、名刺全項目の適用に向けた開発をしています。